

## 近代先島諸島におけるマラリア有病地の空間表現 Geovisualization of Endemic Malaria in the Sakishima Islands in the First Half of the 20th Century

鈴木 厚志<sup>1\*</sup>, 崎浜 靖<sup>2</sup>

Atsushi Suzuki<sup>1\*</sup>, Yasushi Sakihama<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 立正大学, <sup>2</sup> 沖縄国際大学

<sup>1</sup>Rissho University, <sup>2</sup>Okinawa International University

20世紀前半の先島諸島においては、年間1,000人から2,000人のマラリア患者の発生が報告されている。これまでの研究から、先島諸島のマラリア有病地は、高島と呼ばれる大陸性の島もしくは火山島で、起伏があり、水系の発達した地域に多く分布したことが明らかにされている。そもそも、マラリア媒介蚊であるコガタハマダラカは、表層を非石灰岩の地質が広く覆う場所や、水たまりや水田が形成されやすい湿地帯を好み、こうした地理的環境を有する地域が有病地となった。

本研究は、20世紀前半の先島諸島におけるマラリア有病地を高精度DEMや旧版地形図や史料を組み合わせて復元し、地形や土地利用や集落形態との関係から考察を行った。本研究の事例地域は、宮古島、石垣島、西表島とそれぞれの離島である。本研究では、三島のマラリア有病地の集落形態と地理的環境を比較する。

キーワード: 先島諸島, マラリア有病地, 地理的環境, 空間表現

Keywords: the Sakishima Islands, Endemic Malaria, Geographical Environment, Geovisualization